

チャペル週報

No.18

2024.10.14～10.18

秋季宗教運動特集号

飢えている人に心を配り
苦しむ者の願いを満たすなら
闇の中にあなたの光が昇り
あなたの暗闇は真昼のようになる。

イザヤ書 58章10節



吉岡記念館（西宮上ヶ原キャンパス）

関西学院宗教センター



チャペル・スケジュール

時 間:西宮上ヶ原キャンパス・西宮聖和キャンパス 10:30~11:00 神戸三田キャンパス 10:40~11:10
場 所:各学部チャペル(ランバスチャペルアワーは西宮上ヶ原キャンパスランバス記念礼拝堂)

10月14日(月)	神 人 建 短大	潮田 真舟(神学研究科M2年) 酒井 晋弥(神学研究科M2年) Christian Triebel(宣教師、学長直属助教) 小山クラス ダッドレーチャペル
10月15日(火)	神 文 社 法 経 商 国 理・工・生環 総 教	「共に生きる」③ 森本 典子(神学部専任講師) Andreas Rusterholz(宗教主事) コミュニケーション―「伝える」ということ⑤ 土井 健司(副学長、神学部教授) 大宮 有博(宗教主事) 秋季大学キリスト教週間を覚えて 舟木 譲(宗教主事) 木原 桂二(宗教主事) 平林 孝裕(宗教主事) 前川 裕(宗教主事) 宗教総部 李 善恵(宣教師、人間福祉学部教授)
10月16日(水)	神 社 法 商 人 国 理・工・生環 教	関西労働者伝道委員会を通じた釜ヶ崎活動報告 佐々木 愛(神学部3年) 音楽チャペル 混声合唱団エゴラド Christian M. Hermansen(宣教師、法学部教授) 大宮 有博(法学部宗教主事) 嶺重 淑(宗教主事) 李 恩子(元国際学部教員) 河西 秀哉(名古屋大学大学院人文学研究科准教授) 村上 修平(日本キリスト教団 長居教会牧師)
10月17日(木)	大学合同チャペル 「暗闇に光を灯すー私たちにできること」	
10:20~11:10	西宮上ヶ原キャンパス	中央講堂 「ひとりでないということ」 Sarita Badi (Badi Sustain Multipurpose Pvt. Ltd. 社員、ゴスペルホーム<児童養護施設>協力スタッフ) ウィリアムズゆり(特定非営利活動法人バディカフェ代表理事) 佐藤 美香(一般社団法人ゴスペルエイド代表理事)
10:30~11:20	神戸三田キャンパス	VI号館101教室 「わたしたちを包む主の光」 上内 鏡子(日本キリスト教団神戸イエス団教会牧師、社会福祉法人イエス団賀川記念館天国屋カフェ事業担当)
10:20~11:10	西宮聖和キャンパス	メアリー・イザベラ・ランバスチャペル 「国際協力の道を歩んできて」 森田 隆(公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会事務局長/理事)
10月18日(金)	大学合同チャペル 「暗闇に光を灯すー私たちにできること」	
10:20~11:10	西宮上ヶ原キャンパス	中央講堂 「わたしたちを包む主の光」 上内 鏡子(日本キリスト教団神戸イエス団教会牧師、社会福祉法人イエス団賀川記念館天国屋カフェ事業担当)
10:30~11:20	神戸三田キャンパス	VI号館101教室 「ひとりでないということ」 Sarita Badi (Badi Sustain Multipurpose Pvt. Ltd. 社員、ゴスペルホーム<児童養護施設>協力スタッフ) ウィリアムズゆり(特定非営利活動法人バディカフェ代表理事)
10:20~11:10	西宮聖和キャンパス	メアリー・イザベラ・ランバスチャペル 「私たちを突き動かすあわれみの心」 佐藤 美香(一般社団法人ゴスペルエイド代表理事)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:10~8:30 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
10月18日(金) 国連・外交統括センターのために 村田 俊一(国連・外交統括センター長)
Zoom でのご参加希望の教職員・学生等の方は、QRコードを読み込みお申込みください。



わたしたちを包む主の光

上内 鏡子

釜ヶ崎で出会った人々を通して、神の救いと自己の解放を経験された本田哲郎神父は、『釜ヶ崎と福音～神は貧しく小さくされた者と共に～』（2006年 岩波書店）で、バビロンの捕囚という辛い立場に立たされたイスラエルの民が選民としての位置付けを失う一方で、預言者は『闇の中に光が輝いた』（イザヤ9：1）と語り出すことに触れ、「神の力は、貧しく小さくされている仲間たちを通してはたらく。そういう仲間たちを神はいつも選んでいる」「それが神の選び」という。弱く貧しく過酷な状況に置かれている人々を通してこそ、神の力が発揮され、神の働きを伝える力が溢れてくるというのだ。

ここで気付かされるのは、暗闇の中に光を灯すのは、知恵や力を駆使したわたしたち人間ではないということ。また、暗闇の光に照らし出されるのは、貧しい人や一見助けなければならない「可哀想な」人たちの姿や状況ではない、それは力があり知識があると思いつ込んで「わたし」の弱さや不十分さなのだとということだ。今秋のテーマである「暗闇に光を灯すー私たちにできること」の光を灯すのは、預言者の言葉を換言すれば「私たち」ではなく、神こそが照らすのだ。また、そこに照らし出されているのは、小さくされた人々を通して顕になったわたしたちのありのままの姿なのではないか。その時初めて、人々は神の前で生きるということの意味と力を得て、絶望の中から希望の道へと進みゆくことができるのではないか。

わたしは学生時代に、10代後半から20代前半の若いフィリピン人女性たちと出会った。性産業に従事する出稼ぎ労働者たちだ。彼女たちは、わたしの目には美しく煌びやかに写った。しかし、その日常は侮蔑的で屈辱的だった。彼女たちの祈りには叫びと呻きが充満し、痛みと苦しみが心を覆い尽くしていた。そして、キリストが、女性たちのしたたかなその生き方を支えて、共に喘いでいた。わたしは彼女たちに何ができただろうか。何もできなかった。しかし、女性たちの苦しみを照らし出した主の光は、わたしのありのままの姿をも照らし出し、わたしの行くべき主の道が照らし出されたのだと、今ようやく気づくのだ。

（日本キリスト教団神戸イエス団教会牧師、
社会福祉法人イエス団賀川記念館天国屋カフェ事業担当）

私たちを突き動かすあわれみの心

佐藤 美香

私がネパール支援を始めたのは2016年。ある宣教師との出会いがきっかけでした。彼は、ネパールのバディ部族を救うための活動をしているスウェーデン宣教師で、当時彼が語った言葉がいつまでも私の心から離れません。今でも、この言葉を口に出す時、私は涙を流さずに言えたことはありません。

「もし、あなたがネパールに生まれ、バディ族に生まれたとしたら、あなたは、あなたの9歳の娘を売らなければ生きていくことができない」

もちろん、彼はこの言葉を私に向かって語ったわけではなく、ある集会で、全体に向かってこう話したのです。

なぜ、彼が「9歳の娘」と語ったか。それは、バディ族は身分が一番低く、仕事もまともにならないため、娘を売るしか生き残る術がないのです。そして、ちょうどブローカーに売られていく年齢が9歳ごろだということでした。

彼が当時この言葉を口にした時、実際に私の娘が9歳だったのです。

深く、深く私の心に突き刺さりました。

日本に生まれ、幸せな結婚をし、子供が生まれ、当然のように教育を与えることができている。

しかし、ネパールという国に生まれ、バディ族に生まれただけで、こんなにも違う人生を歩む羽目になるなんて。

私はいてもたってもいられず、行動を始めました。私の心には、いつもバディ族の人々を思う時、鉛のような重いものが心の中にあります。そして、いつも彼らを思うあわれみの心が、私を突き動かすのです。

マルコの福音書1章41節には、「イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、『わたしの心だ。きよくなれ』と言われた。」と書かれています。私たちの主は、遠いところから眺めて、来れば助けてやる、というような冷たい方ではないのです。イエスは心を痛め、悲惨な状況を哀れみ、私たちに近づいて触れてくださる方なのです。

バディ族はアンタッチャブル（不可触民）と呼ばれ、ネパールの中では「触れると汚れる」民族として、食事も、あいさつも、交流も持たれない民族なのです。

しかし、そんな彼らにもイエスは私や宣教師のように人を通して、触れてくださる方なのです。

もし、あなたの中にも誰かをあわれむ心があるなら、それこそキリストの心です。ぜひ、行動に移していきましょう。あなたを待っている人がいます。

（一般社団法人ゴスペルエイド代表理事）

I am not alone.

Sarita Badi

My name is Sarita Badi. The word Badi is written with 4 beautiful letters, but when this word is used as a family caste name it automatically establishes our identity and changes the way that other people look at us. That's because the Badi caste is the lowest of the Dalit (lowest caste) untouchable, impure caste and, also because in past generations, our poverty forced women and girls into prostitution.

I grew up in a village called Surkhet, Juprakhola. My village is small – only a few houses and no electricity or running water. My parents had always worked hard, trying to make life easier, but even with their earnings it was hard to get food. So, there was no option for them to send their children to school. It was hard just to live every day. Then when I was 9, I was rescued from the village and went to live in a hostel (orphanage) in Kathmandu. When I first arrived in Kathmandu, I was very excited because everything was new for me. But it was also at that same time that I first learned my identity of being a Badi, and also about the difficult background and conditions that the Badi people have faced.

While I was living in the hostel (orphanage), I was able to go to school. I started to learn about working hard, about possibilities for the future, and to dream. We learned the value of God's Word and the power of giving to make change. Because of that, my sister and I strongly felt that we had to stand on our own feet to protect and support the next generation of Badi people. We decided to leave the hostel (orphanage) and we started our own hostel (orphanage) with the help of Japanese organizations Gospel Aid and Badi Cafe.

Five years ago we started with caring for one child. Today we are raising 20 children there. They all go to church. That is my joy.

In the past, my life had been full of darkness, but Jesus came into my life as Light. I was like wastepaper that people throw away into the dustbin. But Jesus took me out of the dustbin, and He made me precious and useful again. Today, I'm here and can say that even if other people see me as being poor, from a low caste, useless, or whatever, it doesn't matter to me, because for God, I am His princess, and He is my King. He knows me better.

I am not alone in the dustbin anymore; God picked me up, and He is always with me. He always sustains and uses me for His sake.

In the same way, you are not alone. God will help you. He will pick you up and place your feet on solid ground together with Himself.

Thank you.

(Badi Sustain Multipurpose Pvt. Ltd. 社員、
ゴスペルホーム＜児童養護施設＞協力スタッフ)

国際協力の道を歩んできて

森田 隆

クリスチャンの自分は、いつからか「隣人愛」の実践を使命と感じていた。大学卒業間近になると、職業としてそれをしたと思った。私のやりたい愛の社会的実践は平和構築の活動だと考え、国際協力の世界を志した。日本の貿易黒字をアジアに還元する目的で設立された半官半民の会社に勤めていたが、会社は民営化し公益性が薄れていった。そんな時、教会の司祭がJLMM（カトリック信徒宣教会）という団体を紹介してくれた。クリスチャンとして海外で奉仕活動をするという話に魅了され、JLMMに入った。

国際協力の何たるか、というのは理念的に思い描いていただけで、実践としてはよくわかっていなかった。ともあれ、この世の平和を作り出す働き手の一人となりたかった。最初は「発展途上国でNGOの仕事をしている」、という事実をもって自己満足していた。しかし、次第に「本当に良い活動」をしたいと思うようになった。現場を少し知り、解決すべき現実の問題に直面することで、効果のある開発事業を効率的に実施したいという欲が出てきた。その勉強のために大学院にも行った。

とはいえ、社会的成果さえ出せばよいと思っていたわけではなく、ともに生きるという姿勢をもちつつ、社会的に有益な事業を行いたいと思っていた。

ところが、長く働いているうちに、満足できる成果が出ない、自分が思っているようには物事も組織も動かないという状況に、フラストレーションが募り、仕事に対する意欲も低下していった。

もともとは世の中を良くしたい、暗闇のあるところに光をもたらしたい、というところからスタートして国際協力の世界に進んだ。しかし、世の暗闇に光を灯すどころか、自分の足元さえ照らせなくなっていた。

そんなときに、暗闇を照らすのは私ではなくて私の中にある神様であり、自分の中のその光が暗くなってしまうたら、外の暗闇を照らすことはできないということに気づいた。そして、自分の中にある光が暗いのは、輝かないようにしている自分がいるからであり、光を遮るような邪魔をしなければ光は再び輝くはずだ。自分の中の光を取り戻し、外を照らそう。いまはそう思っている。

（公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会事務局長／理事）

●院長室から発信！ビデオメッセージ「風に思う」配信のご案内



関西学院の基盤となるキリスト教の言葉やシンボル、関西学院の精神について語るメッセージビデオです。キリスト教主義教育のエッセンスに触れるとともに、皆さまの心の糧としてご視聴ください。(月 2 回程度更新されます)

<https://ef.kwansei.ac.jp/about/kazeniomou>「風に思う」関西学院 院長室からのメッセージ(HP)

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急大阪梅田駅から徒歩すぐ、アプロースタワー14 階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の月 1 回チャペルアワーを実施しています。場所は1405 教室です。どなたでもご自由にご参加ください。
11月14日(木)17:50~18:10 嶺重 淑(大学宗教主事)

●タベの祈り—テゼの歌とともに

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら皆でこころ静かに過ごす、夕の祈りのひととき。どなたもぜひご参加ください。

日 時：10月15日(火)18:50~19:40
場 所：ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)
主 催：宗教センター

●大学キリスト教週間 宣教師企画

ラビリンス(Labyrinth, 黙想や祈り)

「ラビリンス」(迷宮の意)とは幾何学模様の円形の道のことで、キリスト教の伝統では「歩く瞑想」に使われ、日本でも宗教を超えて用いられています。

皆さんもラビリンスを歩いて、自分の心をのぞいてみませんか？

期 間：10月14日(月)~18日(金)
場 所：KSC セントラル・ガーデン(Ⅲ号館と第一厚生棟の間)

映画上映会

上映作品：『炎のランナー』(1981 年、英国)

日 時：2024 年 10 月 18 日(金)17:00~19:30

場 所：図書館ホール(上ヶ原キャンパス図書館の地下 1 階)

参 加 費：無料(どなたでもどうぞお越しください)

主 催：宗教センター(宣教師企画)

協 力：宗教総部、聖書研究会“ポプラ”

※参加ご希望の方は、下記の URL もしくは QR コードにてご申請ください。(先着 90 名)

<https://forms.gle/NfryTswHkWUuSFH69>



●秋の献血週間のお知らせ

以下のとおり、秋の献血週間を実施します。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆さまのご協力をお願いします。

日 時：KSC・・・10月23日(水)、25日(金)10:30~11:20/12:40~17:00
場 所：KSC・・・体育館横
主 催：宗教総部献血実行委員会

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝

授業期間中の第2・第4日曜日（原則）の10:00～11:00に関西学院会館ベーツチャペルでは日曜礼拝を行っています。どなたでも（クリスチャンでなくとも）ご参加できますのでどうぞお越しください。

10月27日（日）10:00～11:00

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

関西学院最大のクリスマスページェントを大阪のザ・シンフォニーホールで開催いたします。

日時：2024年12月19日（木）17:30 開場 18:30 開始 21:00 終了予定

場所：ザ・シンフォニーホール（大阪市北区大淀南2-3-3）

内容：第1部…音楽で綴る降誕物語とクリスマスメッセージ

第2部…学院の音楽団体によるクリスマスコンサート

参加費：2,500円 全席指定席

参加費は運営費を除いた全額を宗教活動委員会を通して関係団体・施設等に献金いたします。

主催：関西学院

共催：関西学院後援会・関西学院同窓会

お問合せ：関西学院宗教センター tel.0798-54-6018

チケット販売：9月20日（金）販売開始

*関西学院大学生協（tel.0798-53-5150 各キャンパスで販売）

*チケットぴあ Pコード 278-686 <https://w.pia.jp/t/kwansei-christmas/>

*ぴあ取り扱いのコンビニエンスストア：セブン・イレブン

*ザ・シンフォニー チケットセンター（tel.06-6453-2333・火曜定休、ザ・シンフォニーホール内）

<https://www.symphonihall.jp/>



チケットぴあ



ザ・シンフォニーホール

◆CD・DVDライブラリー利用について

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では「日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）切手部」の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますので、どうぞ吉岡記念館事務室へお届けください。

<郵送先>

〒662-8501 西宮市上ケ原一番町 1-155 関西学院吉岡記念館事務室宗教センター宛

◆盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆さまの温かいご協力をお願いいたします。